市立秋田総合病院広報紙

# ふきのとう

fukinoto

2018
冬号
No.038

川尻小学校吹奏楽部演奏会

キッズファーマシー

いこいのコンサート

院内保育所
「こどもの国」発表会

救急車

公開講座

平成29年度の病院祭は、平成29年11月4日（土）に約330名の来場者をお迎えして開催しました。今年度は、これまでも行われている音楽家の方々による「いこいのコンサート」に加え、川尻小学校吹奏楽部による演奏会も行われました。また、各種相談コーナー、救急救命の実演、講演会などの医療に関する催しや小さな子どもさん向けのコーナーへ沢山の方にお越しいただきました。

# 病院改築基本設計プロポーザルを終えて

病院長　伊藤　誠司

2017年９月16日病院改築基本設計プロポーザルが公開プレゼンテーション形式で行われました。基本設計業者の募集に対して６企業体から応募があった中、第一次審査で４つの提案に絞り込み、公開プレゼンテーション後の審査委員会で久米設計と村田設計の共同企業体の提案を最優秀と決定したものです。冬場の強烈な西風を避けて東向きのエントランスやワンフロア60床で四隅にナースコーナーを設けて患者さんの近くで看護できる構造など、審査委員のみならず職員からも好感度の高い提案を選択しました。

１病床あたりの床面積は現在の約62.5㎡から約80㎡となり、総床面積は現在の約28300㎡から約32000㎡になる予定です。患者さんや職員の動線に無理・無駄が無く効率が高いものが求められる一方で、安らぎやゆとりを感じる事が出来る構造など相反する要求をまとめ上げるためすべての職員が協力して徹底的に話し合い、最良の妥協点を見いだして合意を形成していくこととします。

今後は基本設計、実施設計、建築工事と続いていきます。現在は基本設計構築のための聞き取りや打合せが進行中ですが、病院建築は基本設計でほぼすべてが決まると言っても良いほどの重要な作業です。前号で理事長が示した新しい病院に求められ、私たちが提供していきたいと考える機能を十分に発揮できるように配置や構造・広さなどと一緒に運用方法までを含めて決めて行くことになります。外部からの意見も参考にしながら関係職員が集まったワーキンググループ等で協議していきたいと思います。

新病院イメージ図

# 小児救急外来 発足5周年

小児救急担当科長　高橋　まや

小児救急外来（内科）が当院で始まり５年が過ぎました。

日々利用される市民の方々の頼りになる小児救急外来になっているでしょうか。

小児の救急外来は、（軽症が多い）というのが大人の救急外来と大きな違いになります。

その結果、救急受診であっても圧倒的に軽症疾患が多いが故に、診療側に慢心が生まれやすく重篤な疾患を見過ごしやすい。このため、小児救急の本質は重症化させないためにも早期治療を行い軽症で終わらせることにあります。（市川光太郎著　小児救急診療イニシャルステップアップより引用）

とても耳が痛い言葉ですが、今後ともくひどくならないうちに救急受診してくれてよかった＞という気持ちを忘れずにいたいと思います。

なおＮ小学校５年生達から医療者への質問をいただきました。

1．診察するときは、どのような気持ちでしていますか
2．患者さんにいつもどのような声をかけていますか
3．患者さんを助けるとき（助けられたとき）はどんな気持ちですか
4．仕事をするときに、何を大切にしていますか
5．命を守るために心掛けていることは何ですか
6．病気の人にはどのように接したらよいのですか
7．命の重さは、どのようなときに感じますか

秋田の子供たちに胸張って応えられるよう、我々スタッフ一同心掛けていきます。

今後ともよろしくお願いいたします。

# 下肢静脈瘤について

心臓血管外科 科長　星野　良平

足の静脈が、太く目立ってくる病気が下肢静脈瘤です。皮下のごく浅い静脈が目立ってくるクモの巣状静脈瘤・網状静脈瘤と、それよりやや深い大伏在静脈、小伏在静脈及びその枝がミミズ状に太くなる伏在型静脈瘤･側枝型静脈瘤があります。「瘤」とは言っても､「動脈瘤」と違って､破裂して死ぬようなことはありません。

クモの巣状静脈瘤・網状静脈瘤は、主に美容上の問題だけで大きな症状はありません。治療をせず、様子を見ていて構いませんが、美容上気になる場合には、細い針を静脈に刺して硬化剤を注入する硬化療法を行います。この治療は外来で行うことが可能です。

これに対して伏在型静脈瘤･側枝型静脈瘤は、足の静脈の弁不全によって起こるもので、下腿から足のむくみ・疲れ、こむら返りなどの症状を引き起こします。病状が進行すると、内くるぶしの少し上の皮膚の色が変色したり、湿疹を起こしたりし、ひどい場合には皮膚がただれてくることもあります（写真）。静脈の拡張が目立たずに、皮膚の色の変色・湿疹だけが目立つ場合があり、この時には静脈瘤とはわからずにそのまま放置されて、治ったり再発したりを繰り返している人もいます。治療は､長時間立っていることを避ける、足を高くして寝る、など生活習慣を変えることから始めます。次に足にあった弾性ストッキングを装用します。足にあったサイズの弾性ストッキングは極めて有効です。当院では専門の技師が、足の計測を行い患者さんに合ったストッキングの選択と着用方法を指導しています。それでも効果が得られない場合は手術を考えます。手術は弁不全を起こした大・小伏在静脈を抜き取るストリッピング術を行います。最近ではレーザーあるいは高周波で、弁不全を起こした静脈を焼く焼灼術も行われています。気になる方は心臓血管外科を受診して下さい。

# 地域医療連携室での新規事業　予定入院患者の「入院前支援」を実施しております！

昨年５月から、患者支援の一環として外科の予定入院患者に対して入院前支援を行っています。手術を控えた患者さんの不安を軽減する為、術前術後がイメージできるようなオリエンテーションや休薬の説明を行なったり、時には病気に対する悩み相談に対応したり一人ひとりに丁寧な面談を行っています。開始後は、患者さんに対する説明不足が解消され満足度も向上しています。８月からは、消化器内科の大腸ポリペクトミーの患者さんも対象に加え入院前の支援を開始しました。

しかし、患者さんをお待たせすることなく診察や検査の合間に時間を調整して実施するには予想以上の苦労があり、外来看護師や鑑別する薬剤師等との連携が重要で、定期的に調整会議を行って運用を構築しているところです。対象科を拡張するには更なる運用の検討が必要ですが、患者さんの満足度や円滑な手術前の準備を考えると早急な体制の確立が必要と考えております。

７か月間（Ｈ29年５月～11月）の実績

●第１面談……217件

●第２面談……112件

＊必要な人には２度実施

●入院前電話確認……113件

１日３～５人の面談を行っています

## シリーズ病棟紹介 ―第８回―

### 4階病棟

当院精神科病棟は、総合病院の精神科病棟として、身体合併を伴う精神疾患患者の受け入れを積極的に行っています。思春期の若い年代から高齢者まで、入院患者さんの年代は多岐にわたっています。一昨年10月からは認知症疾患医療センターの開設に伴い、認知症診断のための検査入院や、BPSD（認知症周辺症状）の治療が必要な事例の入院が増加しており、認知症の検査や治療に今まで以上に力を入れて取り組んでいます。

医療スタッフは、経験豊富な医師を始め、男性看護師を含めたチームワークの良い看護スタッフ、精神科薬物療法認定薬剤師や臨床心理士、精神保健福祉士が一丸となって、入院中のみならず退院後の事も見据えてサポートしています。

病棟は開放病棟と閉鎖病棟に分かれており、患者さんの病状に合わせて、適切な環境を選択しています。どちらの病棟も同じスタッフが責任を持って担当しますので、安心して治療と療養ができる環境を整えています。

また、地域のコミュニティセンター等に『認知症の出前講座』に出向いたり、院内では『こころの教室』を開催し、市民の皆様にも参加して頂いています。

スタッフ一同、患者さんとご家族に日々寄り添い、社会復帰ができるように力を合わせて援助しています。

精神科病棟師長　須田　由美子

# 乳がん看護認定看護師について

乳がん看護認定看護師　安藤　雅子

乳がんは年々増加し、年間約90,000人を超える女性が乳がんと診断され、女性の約11人に1人が生涯乳がんに罹患すると言われています。乳がんは30歳代から増え始め、40歳代後半から50歳代前半に罹患のピークを迎えますが、最近では60歳代の罹患も増加し二峰性になってきています。女性にとって40歳代は、家庭や社会での役割が多く、乳がん治療に付随する様々な問題（家庭・職場での役割変化、経済的負担、結婚・妊娠、ボディイメージの変化など）を抱えながら治療に向かわなければなりません。また、乳がん治療も個別化、複雑化しており、治療選択の際は主治医や医療者と十分に話し合う必要があります。乳がん看護認定看護師の役割は、専門的知識を持ち、患者さんの様々な状況・ＱＯＬ・価値観とすりあわせをしながら、患者さんが納得した治療を選択できるように支援することです。さらに、化学療法や放射線療法、内分泌療法など通院しながら治療する患者さんに対し、患者さん個々の生活に合わせたセルフケアの方法を一緒に考えていくことも私の役割です。長期にわたる治療の中で、どの経過の患者さんに対しても、思いに寄り添いサポートしていきたいと思っています。

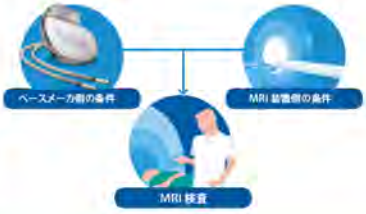
近年の乳がん領域でのトピックスとしては、乳房再建や妊孕性温存、遺伝性乳癌卵巣癌症候群などがあります。このような専門性の高い分野については、残念ながら院内だけでは対応できない内容もあります。患者さんへ正しく情報提供し、ケアを提供できる体制の構築にむけて努力していきたいと思います。

ご存じのように、マスメディアでも芸能人の乳がんが大きく取り上げられ、患者さんにも一般の方々にも大きな影響を与えました。乳がんへの関心が増え検診を希望する人も増えました。しかし、一方で個人の体験や感想を誤った情報として受け取りかねないことも事実です。乳がんを正しく知り、早期発見・早期治療につながるよう啓発にも力を入れていきたいと思います。疑問や不安なことがあればいつでもお声がけ下さい。

# 『条件付き』MRI（磁気共鳴画像装置）対応ペースメーカについて

放射線科　診療放射線技師　山田　雅昭

MRI検査は、あらゆる領域で検査が行われており、現在の診療になくてはならない医療機器となっています。従来のペースメーカは誤作動や発熱を起こす危険性があるためMRI検査を行うことができませんでしたが、2012年にMRI対応ペースメーカが新たに開発され検査を行うことが可能となりました。当院でもMRI対応ペースメーカ植込み患者さんの全身撮像を行っております。




MRI検査を行うための条件は、①MRI対応ペースメーカであること（当院で操作可能なもの）②ペースメーカカードを提示することになります。

また MRI 検査においては循環器医師、放射線科医師、臨床工学技士、診療放射線技師の４職種の連携のもと撮像を行いますので安全に検査を受けることが可能です。

近年、ペースメーカ同様さまざまなMRI対応の体内植込み装置が開発され検査が可能となっております。これまで、体内植込み装置を入れるとMRI検査を受けられないのが常識でありましたが、これからは医療の進歩により受けられるのが常識に変わりつつあります。全てが可能になるにはまだまだ先のことになると思いますが、我々も時代の進歩に遅れをとらぬよう取り組んでまいります。

# 転倒予防教室について

リハビリテーション科　理学療法士　**柴田　和幸**

当院では平成27年度から高齢者の転倒、寝たきりを予防し、健康寿命を延ばすという目的で転倒予防教室を開催しています。

「転倒」は高齢者が寝たきりになる原因の一つと言われています。転倒することで足の骨、腰の骨などを折ってしまうことで動けなくなり、そのまま寝たきりになってしまうことが多くみられます。高齢化が進む秋田では、寝たきりの原因となる転倒を予防することが重要だと考えています。

転倒骨折の原因は様々ですが、当院の転倒予防教室では以下の３つの要因に着目しております。

まず１つ目は、骨密度です。高齢になると人間の骨密度は低下していきます。つまり、骨がもろく、折れやすくなってしまいます。特に女性の方はホルモンの影響でさらに骨が弱くなります。実際に骨密度の測定を転倒予防教室の初回時に行い、その結果から場合によっては整形外科での薬物治療を勧めております。

２つ目は、運動機能です。転倒の原因としてよく挙げられるのは筋力の低下、バランスの低下です。転倒予防教室では初回と最終回に皆さんの運動機能を評価します。３ヶ月の期間でどの程度向上がみられたのか判断し、また、一般の高齢者の平均と比較して自身の足りていない部分がどこなのかがわかります。こういった点に着目しながら、運動を実際に行い、自宅でも行えるよう指導を行います。

３つ目は、栄養管理です。栄養は骨密度を向上させたり、筋肉を作るのに必要不可欠な成分です。普段の食生活からは見えてこない栄養の重要さを管理栄養士から講義を受けることができます。さらに自宅での食事の内容を評価し、その内容から足りていない栄養素、食べることが推奨される食品を提示しています。

このように当院での転倒予防教室では転倒予防に関わる情報や知識を得るだけではなく、実際の運動や食生活の改善にも着目しており充実した内容となっています。毎年２期ずつ（１期目：４～７月頃、２期目：８～11月頃）行われています。開催日程等が決定次第、当院ホームページと「広報あきた」でお知らせしますので、ご興味のある方は是非ご参加ください。

## 市立秋田総合病院

**理　念**

- 市立秋田総合病院は、すべての人々の幸福のため、良質で安全な医療を提供し続けます。

**基本方針**

- 常に医療水準の向上に努め、地域の中核病院として多様化する医療への要望に応えます。
- 患者さんの権利や意思を十分に尊重し、診療情報の提供による相互理解に基づく医療を行います。
- 医療の安全のさらなる向上に努め、患者さんが安心できる医療を行います。
- 職員にとり働きがいのある就労環境の整備に努め、質の高い医療人を育成します。
- 業務の改善と効率的な運営に努め、健全で安定した経営基盤を確立します。

編集・発行／市立秋田総合病院　平成30年２月10日発行
〒010-0933　秋田県秋田市川元松丘町４番30号　Tel（代表）：018-823-4171　Fax：018-866-7026
E-mail：ro-homn@city.akita.akita.jp　http://www.akita-city-hospital.jp/